えひめ 健康だより

2007
No.24

池之浦海水浴場（西予市三瓶町）

CONTENTS

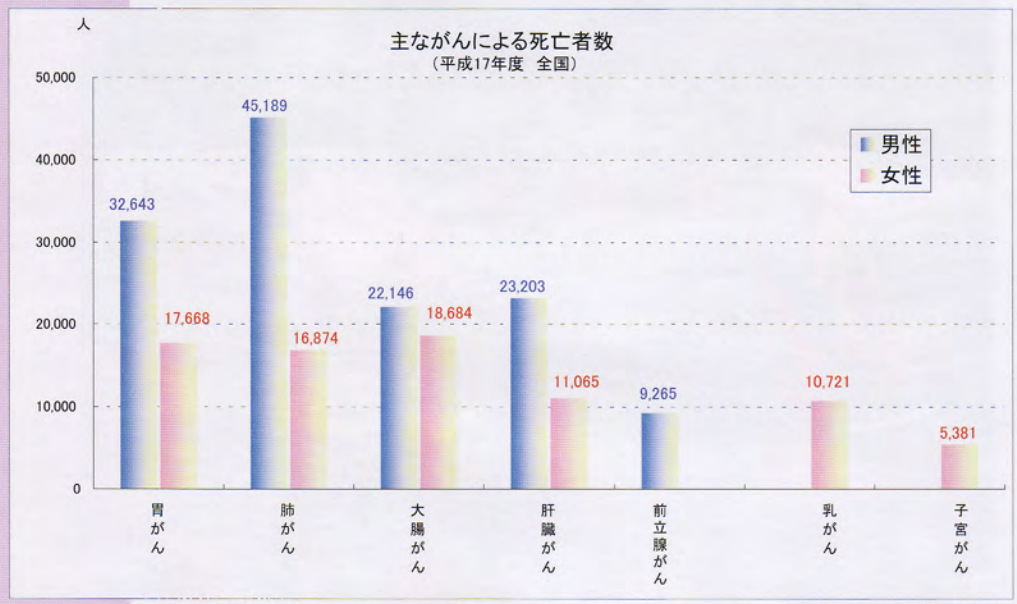
大腸がん検診を受けましょう …… 1～4
インフォメーション …… 5
わたしの街から …… 6
～西予市三瓶町～

財団法人 愛媛県総合保健協会

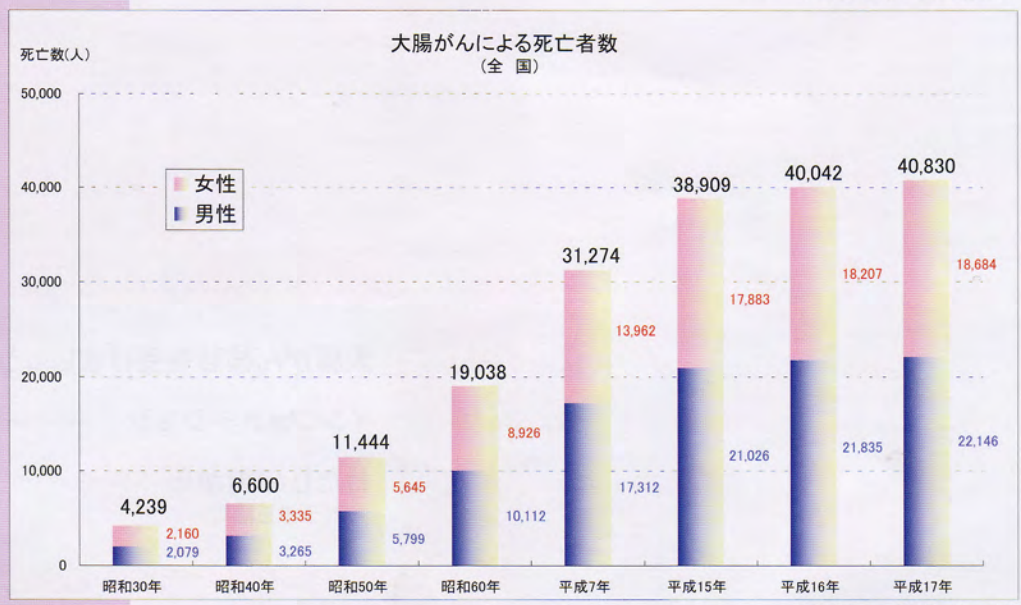
大腸がん検診を受けましょう

財団法人愛媛県総合保健協会　参与　川上 壽昭

大腸がんは非常なペースで増え続けています。平成17年度に大腸がんで亡くなった方は4万830人で、部位別の死亡者数では肺がん、胃がんに次いで3番目となっています。しかし、女性では18,684人の方が亡くなり、がん死の第1位で乳がん死亡者（10,721人）の約2倍、子宮がん死亡者（5,381人）の約3倍となっています。

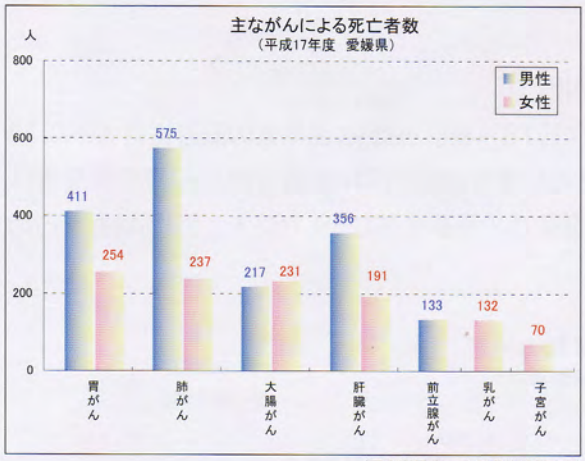


（厚生労働省　人口動態統計より）

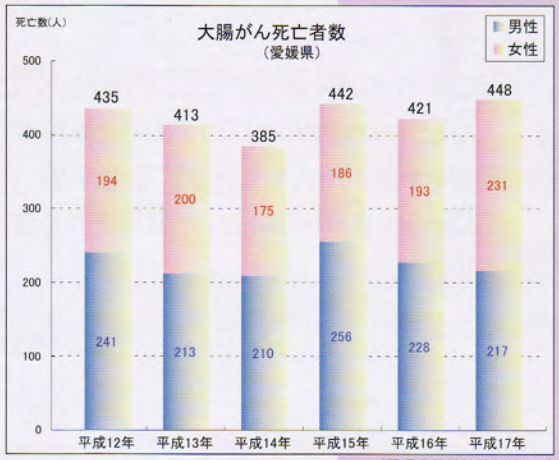


（厚生労働省　人口動態統計より）

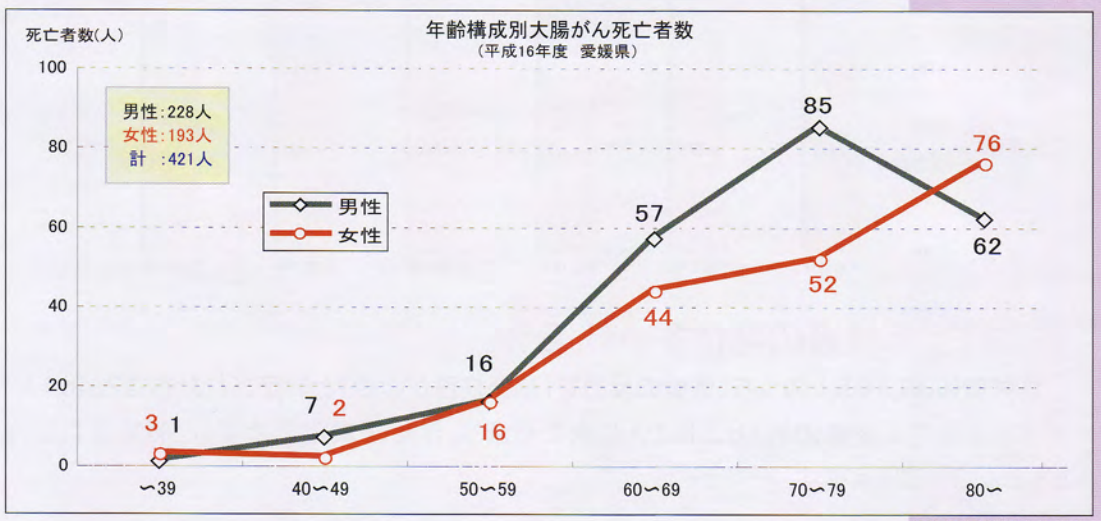
愛媛県においても、大腸がんで亡くなる方は年々増えてきており、平成17年度には448人（男性：217人、女性：231人）の方が亡くなられています。年齢構成別死亡者数は、男・女ともに50歳代から増えはじめて60歳代・70歳代と多くなってきています。



（厚生労働省　人口動態統計より）



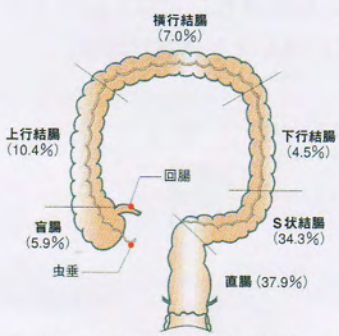
（愛媛県保健統計年報より）



（愛媛県保健統計年報より）

大腸がんの原因

大腸がんの増えている原因は、食生活の欧米化によるものといわれています。大腸がんの多い欧米では肉食が多く、繊維質を含む穀類、いも、豆、海草などをあまり食べません。日本でも、最近ではこの傾向が強くなってきたため大腸がんが増えたものと思われています。このため、2015年には大腸がんが「がん罹患率」のトップになると予想されています。



（国立がんセンター 1990～95年 1,409例の症例）

大腸がんの発生部位

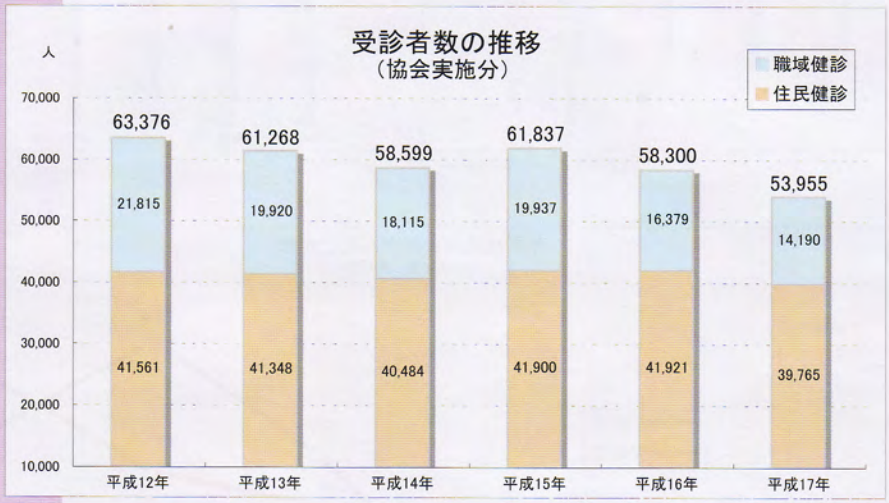
大腸がんは、その発生する部位によって「直腸がん」と「結腸がん」に分かれます。大腸がんが最もできやすいのは直腸で、次がS状結腸です。この2つの部位での大腸がんの発症は、約7割と報告されています。

大腸がんの検査法

大腸がんは、早期のうちに見つかれば、手術で完全に治すことができるといわれています。早期の治療成績は極めて高く、早期発見・早期治療の大切さがいわれています。　大腸がんの初期症状は便に血が混じることです。肉眼で見えないほどの少量の出血でも「便潜血反応検査」で発見することができます。　現在は、動物の血には反応せず人間の血液にだけ反応する免疫学的便潜血反応検査法が採用されているため、食事制限をする必要はありません。

大腸がん検診の受診者数…減少傾向

しかし、大腸がん検診の全国での受診者率は約18%程度と低く、当協会の受診者数も平成12年度の63,376人をピークに年々減少してきています。平成17年度の大腸がん検診受診者は53,955人で、市・町において実施される住民健診での受診者数が39,765人と70%以上を占めています。



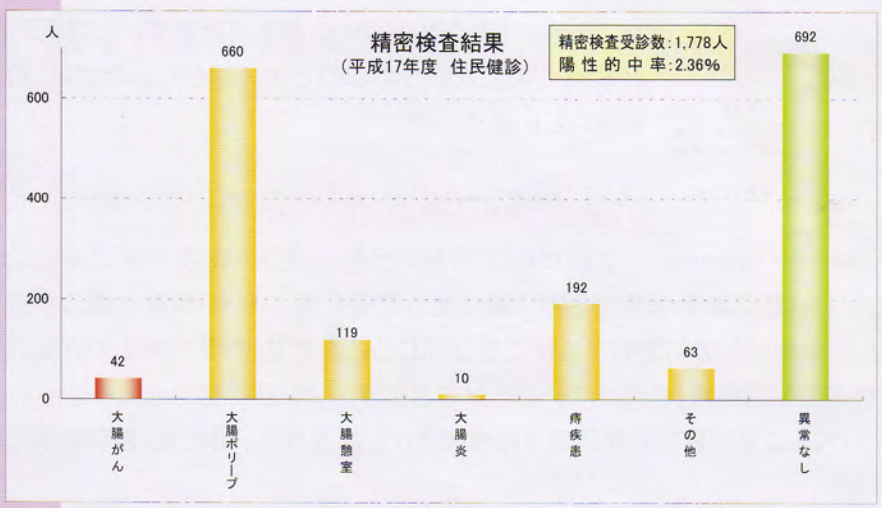
便潜血反応検査の陽性率…6.2%

住民健診39,765人のうち、便潜血反応で「精密検査が必要」と判定された方は2,464人、全体の6.2%で受診者の約16人に1人にあたります。また、「異常認めず」と判定された方は93.8%、37,301人です。

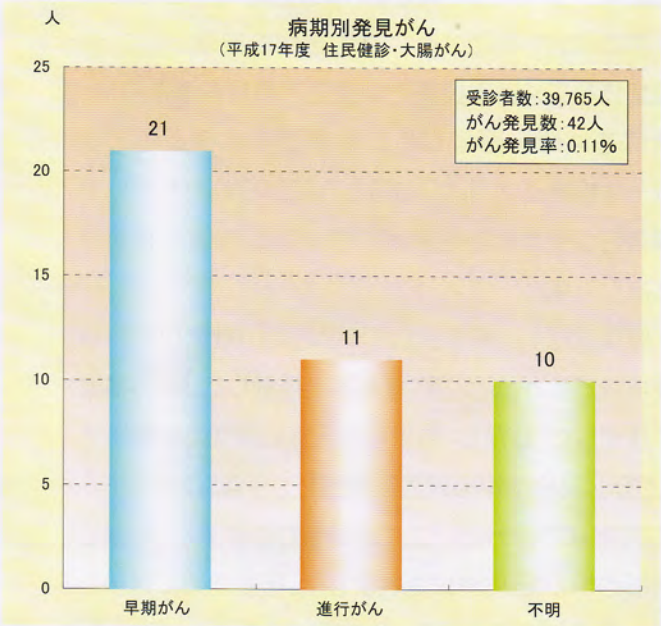
要精密検査と判定された方の追跡結果

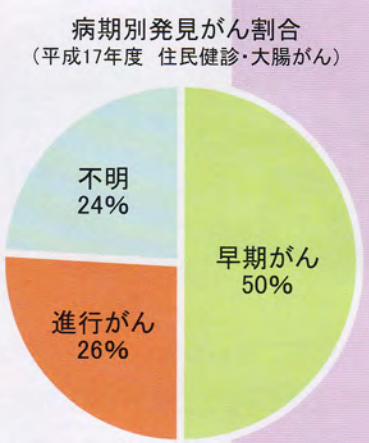
当協会では、便潜血反応で精密検査が必要と判定された受診者の方に医療機関で精密検査を受診されますよう勧めています。平成17年度の住民健診で要精密検査と判定された2,464人のうち精密検査を受診された方は1,778人、受診率は72.2%となっています。しかし、一方では、「精密検査を必要とします」との知らせを受け取りながら、医療機関を受診されなかった方が27.8%もありました。

医療機関で精密検査を受診された人のうち、何らかの所見ありと診断された方は1,086人ありました。その内訳は、大腸がん42人、大腸ポリープ660人、痔疾患192人などであります。



受診者全体に対する大腸がん発見率は0.11％で、これは受診者1,000人に1人の割合で発見されていることになります。また、便潜血反応検査で要精密検査と判定された方が医療機関での精密検査を受診され「がん」と診断された人は42人。 病期別では早期がん21人、進行がん11人そして不明がん10人の結果になっています。

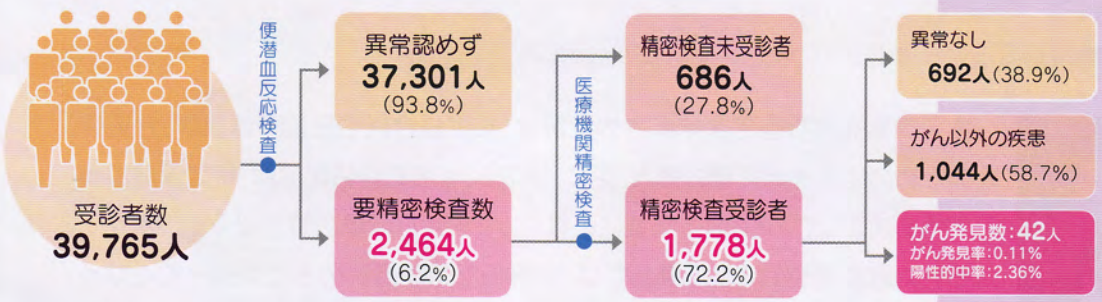




要精密検査の通知を受けたら、必ず医療機関へ

大腸がん検診の精密検査受診率は全国的にも決して高くありません。その理由は「忙しくて時間がない」「病院に行くのが億劫だ」「面倒だ」「多分、痔だろう」などなど、さまざまだろうと思います。 平成17年度の住民健診で、精密検査が必要とされながら受診しなかった人は686人。追跡調査の結果（陽性的中率：2.36％）から推測すると、この中には16人ほどの方に大腸がんが含まれている可能性があります。これらの方は、お忙しい中せっかく都合をつけて検診を受けながら、大腸がんの早期発見の機会を逃していることになります。

■大腸がん検診の流れ



大腸がんは、早期に発見し適切な治療を行えば、そのほとんどが治せる病気といわれています。ただ、初期には症状が出にくく、発見されにくいのも事実です。それだけに年1回は、必ず大腸がん検診を受けてください。そして、自分の健康に向き合う勇気の輪と受診の輪が多くの人に広がるよう呼びかけてください。

Infomation

超音波検診車 完成

新しく仲間入りした超音波検診車「アイリス」

各種検診・検査の中でも、腹部超音波検診は特に人気の高いもののひとつです。放射線被曝なしに、お腹全体を広く断層画像で検査できる超音波検査は、病院では聴診器替わりに利用されるほどポピュラーな検査です。また、お母さんになられた方なら全員の方が受診経験をお持ちのように、安全な検査でもあります。

昨年度は12,000名の方にご利用いただいた超音波検診ですが、5台の検査装置を搭載した3台の検診車で、県下全域におじゃまして検診を行ってきました。しかし、あまりの人気に3台の検診車ではご迷惑をおかけすることがあり、昨年度より新しい検診車の導入を検討してきました。

狭い会場へも容易に出入りできて、しかも内部はできるだけ広くというわがままな、しかし大切な要望を満たした新しい検診車は、梅雨前の6月4日に納車されました。年度開始には少し遅れましたが、これで検診車4台に検査装置6台の体制を整えることができました。

新しい検診車の名前は、6月の花「アイリス(あやめ)」としました。花言葉は「よい報せ」とのこと。検診計画に苦労しているスタッフにはもちろん、何より受診者のみなさまにとって「よい報せ」になると期待しています。どうかよろしくお願いします。

「よい報せ」の追伸:納車翌日にはすぐに検診会場へ出かけたアイリスですが、その後も連日の大活躍です。

新理事長就任

6月28日に開催しました(財)愛媛県総合保健協会の第19回理事会・評議員会において、久野梧郎氏(愛媛県医師会長)が理事長に就任致しました。

新理事長
久野梧郎氏

協会事業を取り巻きます昨今の状況は、市町村合併や三位一体改革、介護保険のための生活機能評価の導入、更に、平成20年度には特定健診・特定保健指導の実施も決定しており、健診事業にとりまして大きな変革の時を迎えています。

それだけに当協会と致しましては、久野梧郎新理事長のもと職員一丸となって県民の皆様の健康保持増進と福祉の向上に努めて参りますので、倍旧にもましてご支援とご協力を賜りますようお願い申しあげます。　(文責　川上)

わたしの街から

西予市　三瓶総合支所
保健福祉課健康推進係長
佐々木靖子さん

西予市三瓶町の紹介

三瓶町は、西予市の南部に位置し、西はリアス式海岸の三瓶湾が開け、背後は300mから500mの急峻な山々が連なっています。そのため、平地に乏しく集落は湾岸に立地しています。基幹産業は農漁業で畜産は県内最大規模です。漁業はハマチ・ヒラメの養殖と大型巻き網が主体となっています。

平成16年4月1日、宇和町、野村町、明浜町、城川町、三瓶町の5町が合併し、人口4万6,000人余りの西予市が誕生しました。

三瓶町

三瓶町保健福祉総合センター

みかめ海の駅『潮彩館（しおさいかん）』
平成19年4月オープン。地元農水産物の直売所や愛らしい魚「マンボウ」が飼育されています。

健康づくりへの取り組み

「元気だ！せいよ（西予市健康づくり計画2014）」が3年目に入りました！平成17年3月に出来上がり、平成17年度からスタートしています。この計画は西予市民を中心にみんなで作成しました。生活の満足度を高めるという目的も取り入れ、自らが、自分の健康を守り高めるという意識を持ち、安心して暮らすことができる活気ある社会を目指しています。

活発な食生活改善推進員活動

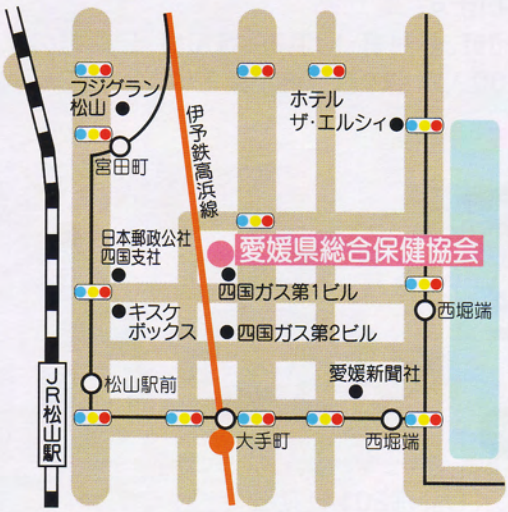
日頃から自分たちで研修し、その内容をそれぞれの地区に持って帰り、健康づくりの輪を広めています。その努力と功績を評価され、三瓶地区北支部が先般「愛媛県食生活改善推進連絡会長表彰」を受けました。

健康診査・事後説明会

年々高齢化が進む西予市ですが、5月末で34.6%、三瓶町でも35.6%となっています。総合健診は今年度も15ヶ所を回る予定です。年間で1,400人余りの受診者です。受診率は実際のところ伸び悩んでいる状況です。受診率を伸ばすためにはどうすればいいか？特に若い人たちにもっと健診を受けてもらいたい…今の大きな課題です。健診受診はあくまでも健康づくりのスタートライン、私たちの指導で行動変容につながった時は仕事のやりがいを感じます。受けっぱなしで終わるのではなく、結果が出てからの説明会や訪問に力を注いでいきたいと思っています。

健康教育・健康相談

健診結果やここ数年の傾向をもとに、保健推進員さんたちの意見を取り入れながら地区での健康教育の内容を企画しています。実際のところ、人集めが難しいこともありますが、中央での重点健康教育等で実際に参加して効果が出てくると必要な知識や習慣も身につくし「来てよかった。」という声も聞かれます。自己管理ができるようになることを目指して、引き続き頑張っていきたいと考えています。



財団法人 愛媛県総合保健協会

〒790-0814　愛媛県松山市味酒町1丁目10番地5
TEL(089)987-8200(代)　FAX(089)987-8250

南予支所　〒798-0033
宇和島市鶴島町3番1号
TEL(0895)22-3128　FAX(0895)23-3499

東予出張所　〒792-0025
新居浜市一宮町1丁目14番18号
TEL(0897)32-5428　FAX(0897)34-3092

[個人情報の取り扱いについて]

本誌を送付させて頂いている皆様のお名前、団体名、事業所名、住所は、当協会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。個人情報の訂正および削除を希望される場合には、お手数ですが事業推進課(089-987-8203)までご連絡ください。

えひめ健康だより No.24　平成19年7月31日　編集・発行(財)愛媛県総合保健協会